

一般質問12人の視点

「歩いて・見て・聴いた」こと「議員自身の提言」も交えて、町に考えを質す！

3月定例会でも、あらゆる町の課題に、議員一人一人の目線で、執行部と真剣な議論を展開。今後の町の動向にも注目！

- P13
フレイル
- P12
移住者定着
- P12
改修計画
- P11
林野火災
- P11
地域の発展
- P10
財源確保へ
- P10
事業評価
- P9
バスの購入
- P9
国保税軽減
- P8
産前支援
- P8
スマホ役場
- P7
保護者負担

皆さんは
どのテーマに
関心が
ありますか？



各議員のQRコードから一般質問の録画映像を見ることができます。
スマートフォン等からアクセスして、ぜひご覧ください。
全質問項目は、下諏訪町ホームページから見ることができます。

下諏訪町議会
議会中継
チャンネル



一般質問

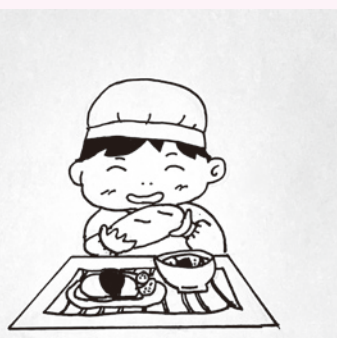
保護者負担

かない けいこ
金井 敬子



学校給食無償化への考えは
答弁 総合的に鑑み一定額は保護者負担

問 小学校給食費について、来年度児童1人あたり月額5200円分を国と県が半分ずつ補助するが、当町では実費との差額分を保護者負担にする「負担軽減」に留まるのは、なぜか。
町長 国・県から全国平均に基づき補助がくるが、当町における不足分年間1万800円を保護者に負担していただく。これまでの6万円を超える負担に比べ、大幅な軽減になる。今年度と同様、中学3年生は全額無償とし、中学1・2年生については値上げ分を町が補助する。
問 今後、小中全学年の給食費無償化に向かう考えはないのか。
町長 今後は国からの情報にアンテナ高くして、検討する。
問 食物アレルギーや宗教上などの事情によるお弁当の持参や、長期欠席・不登校など、給食が食べ



全国に広がる給食費完全無償化

られないケースへの対応は。教育子ども課長 議論できていない。保護者の意見を聞いていく。
学童クラブ支援員配置
問 学童クラブへの地域おこし協力隊員2人の採用に伴う、支援員配置に変化は。
教育子ども課長 隊員には代表支援員を兼務いただく。引き継ぎも含め、現在の代表支援員の方には、支援員として残っていただく。



はやし よしひろ
林 吉広

**オンライン手
続きの進捗は**
答弁 国の推進計画に
基づき整備中

問 オンライン窓口、スマホ役場の導入の考えはあるか。

総務課長 来庁が難しい方に合わせた行政サービスは重要であると認識している。しもすわインフォにおいてプッシュ型の申請手続きや、情報発信等も各種行っている。役場に来庁いただかなくても必要な情報にアクセスできる環境を整備し、住民の利便性向上に努めている。フロントヤード改革検討部会に参加し検討を進めている。

問 窓口業務の負担軽減の促進、業務の効率化についての考えは。

町長 限られた人員で、最大のサービスを提供していく仕組みは重要である。窓口業務の時間短縮は、住民サービスの質の向上を図りながら業務の効率化、職員の疲弊防止を実現するための取り組みであると考える。今後は町の実情にあわせて構築を進めていく。

持続可能な保護者活動とは

問 PTA活動休止の問題点は。教育長 PTA活動の継続性については、保護者負担を軽減していく方向性が必要。今後は何をPTAが担うべきなのかを考え、業務の減少を検討していく。PTAは独自の組織ではあるが、町として寄り添った対応をしていきたい。



いつでもどこでもオンライン窓口



たけもと かな
竹元 完奈

**産前産後ヘル
パー導入は**
答弁 孤立のないよう
課題を研究する

問 重度のつわりや切迫早産など日常生活に支障をきたす妊婦が置かれる状況について町の認識は。

保健福祉課長 保健師が全ての妊婦に面談して相談の中で把握する。

問 絶対安静が必要であっても、家事や育児を止めることが難しい妊婦への家事・育児支援の考えは。

教育長 児童家庭相談員に繋げて状況を把握する。一時預かりの「ファミリーサポート制度」など、希望に合わせて体制強化をしていく。

いずみ湖公園魅力化

問 いずみ湖公園の今後の活用は。
町長 供用開始から30年経過し、施設も老朽化してきている。特有の自然環境を活かす中で、大規模改修は難しいが、現在研究中。
問 魅力化に向けた進捗状況は。



みんなに愛されるいずみ湖公園に

**産前産後ヘル
パー導入は**

答弁 孤立のないよう
課題を研究する

建設水道課長 R3～7年度にかけてアウトドア施設の視察や町民、利用者、民間業者にアンケートを実施。自然環境やカヌー等の満足度は高いが、周知不足や交通アクセス、施設整備等の課題がある。
問 集落支援員制度を活用した企画運営で魅力化していく考えは。
町長 地域の実情に明るい人を活用し継続的にしていくことが重要。集落でない地域で活用できるか調査研究していく。今後の研究の中で様々な制度、人材を活用していく。



はなおか すずむ
花岡 進

**子ども子育て
支援金負担**
答弁 繰越金活用で当初
予定より下げた

問 今後の国保税率改定の見通しは。

住民環境課長 県内保険料平準化とその先の完全統一のため、今後10年程度は税率改定が続く。加えてR8～10年度にかけ子ども・子育て支援金も引き上げられる。

問 医療保険に子育て支援金を上乗せする合理的な理由はない。支援金を町が負担し負担増の抑制を。

町長 子ども・子育て政策の安定的財源確保のために国が決めた全世代で支え合う制度。町は負担軽減のために努力した。

下諏訪向陽高校の存続

問 「下諏訪向陽高等学校魅力向上支援」の内容は。
教育長 R8年度から放課後向陽塾と特別授業講師謝礼への財政支援を行なう。
問 県に存続を強く求める考えは。



地域でかけがえのない下諏訪向陽高校

教育長 県の高校再編基準の変更と適用時期延長を求めらる。

町長 引き続き町の総力を上げて向陽高校への支援を行なっていく。

部活動地域展開の課題

問 先行する3つの部活動から見える課題は。
教育長 指導者確保のため保護者負担、練習場所の施設利用料、移動手段、トラブル時の責任の所在等は今後の検討課題。



たるかわ のぶひと
樽川 信仁

**マイクロバス
購入について**
答弁 購入せず、都度
レンタルとする

問 マイクロバスと中型バスの検証で中型バスにした考え方は。

総務課長 マイクロバスの定員オーバーが多いので中型バスとした。

問 リビルト部品での修理はできないか。

総務課長 生産が終了し、部品入手ができない。交換も難しい。

国道142号の安全は

問 事故要因の把握、分析は。
建設水道課長 長い下り坂の終盤で加速しやすい。ブレーキが過熱し効が悪くなり減速できなかった可能性がある。

問 県に要望したが対応は。

建設水道課長 危険表示看板45枚、カーブに25基のクッションボードなど設置していただいた。
問 町としての対策は。
建設水道課長 警察などと連携して、啓発活動をしていく。



142号線事故現場

観光・地域づくりは

問 観光振興局での昨年実績は。
産業振興課長 旅行企画により31プログラム428人、2260万円の収益があった。

問 R8年度の取り組み方針は。
産業振興課長 着地型商品の提案。今昔館は技術の伝承を入れる。

問 朝ドラへの準備は。
産業振興課長 諏訪フィルムコミッションが主体。町は協力していく。

事業評価



はやし もとお 林 元夫

問 R6年度実施された180事業のうち、達成度C、D評価かつ総合評価において手法改善、拡充などとされた事業は36事業。またR5年度でも達成度C、D評価とされた事業は19事業。そのうちの16事業についてどう見直して、政策転換を図るのか。

答 「おでかけ町長室事業」は。総務課長 申し込みがなかった。周知に努め、利用促進を図る。

問 ふるさと納税については。総務課長 ふるさと納税はR7年度から始めた「現地決済型」導入により増加傾向。体験型・クーポン型を検討する中で、中間事業者導入により商品開発などを進め、歳入確保の柱としたい。

ハイム天白へ 繰入金が増加 出来る限り存続 させる

答 町長 有効であるが、現在の財政では基金積立は難しい。県下唯一の公設公営の施設でセーフティネットの役割も。出来る限り存続させる。

問 消防団員の福祉向上を図り、参加したくなる消防団を目指さなければいけない。施策は。消防課長 ライフスタイルの多様化に対応した機能別消防団員制度の活用や、女性が活動しやすい環境整備にも取り組んでいる。



繰入金増加の「ハイム天白」

財源確保へ



のざわ ひろこ 野沢 弘子

問 寄附額向上への取り組みは。総務課長 中間事業者への一部業務委託で新たな返礼品を開拓し、更なる寄附額の獲得に努める。

問 企業版ふるさと納税の展望は。町長 町に縁のある経営者に協力を得られるよう、可能な限りトツプセールスにも注力していく。

問 学校給食費の負担軽減。小学校給食費を月額5200円まで国が支援するが、不登校や重度のアレルギー等により給食を利用しない児童に対し、公平性の観点から国の支援相当額を現金給付出来ないか。教育こども課長 国の動向など今後の見通しを注視しながら持続可能な支援を模索したい。



リチウムイオン電池の発火事故防止

ふるさと納税 は重要な施策 財源獲得に力を 入れる方針

答 保健福祉課長 町ホームページの掲載方法を工夫する。

問 児童生徒への補聴器の装用を理由としたじめの未然防止策は。教育長 人権教育やアンケート調査で早期発見し対応する。

問 発火事故を防ぐ分別収集体制。町長 ゴミ出しガイドブックの分別表記、具体例の提示など分かりやすさの向上に努めたい。

地域の発展



とよしま たけゆき 豊島 健之

問 町将来人口を維持するには、いかなる要素に対して、どのような策を講ずるべきか。

答 総務課長 将来人口の設定に当たっては、人口総数の増減要因となる自然増減と社会増減について総合的な判断が必要。自然増減は、出生率が改善しても、その効果が人口全体に反映されるまでには時間を要する。対して社会増減は、施策の効果が比較的短期的に現れやすい要素である。よって出生率については現実的かつ段階的な改善を見込み、社会移動については施策の努力により一定の改善を図るという想定である。具体的には、移住定住施策・子育て世帯への支援、産業振興による雇用の確保等により、転出の抑制や転入の促進を図る。これらは人口構造の改善、とりわけ将来の労働力人口や出生数の基盤確保に直結するものである。

町将来人口を 維持するには 町施策を住民一丸 となつて講ずる

答 町長 町が進むべき方向を示すビジョンや理想を掲げることは必要。指摘の通り、数値はある意味理想的な部分もあるが、しっかりと人口ビジョンを分析し、エビデンスをとって掲げているものもある。第8次総合計画、第3次未来を創る総合戦略に沿った様々な事業を展開し、住民と一丸となつて将来人口の維持に對峙したいと思う。

問 出生率や純社会移動率等、町の想定値は、希望的観測ではないか。町長 町が進むべき方向を示すビジョンや理想を掲げることは必要。指摘の通り、数値はある意味理想的な部分もあるが、しっかりと人口ビジョンを分析し、エビデンスをとって掲げているものもある。第8次総合計画、第3次未来を創る総合戦略に沿った様々な事業を展開し、住民と一丸となつて将来人口の維持に對峙したいと思う。



結婚5組出生11人と状況は深刻

林野火災



まつい せつお 松井 節夫

問 林野火災への対応に、大型チェンソーが必要ではないか。消防課長 各分団に計9台配備。大型は無いが現装備で十分。

問 向陽坂に防犯灯を増設できないか。または、ソーラー照明灯を。消防課長 増設要望には対応する。ソーラー照明灯は研究課題。

問 下屋敷の国道142号法面の灌木除去は。建設水道課長 R6年6区区长・町内会長からも要望あり。県に要望したが、現状では問題ないとのこと。引き続き現状把握に努める。

問 下屋敷では142号法面からの落ち葉が多い。これは誰が片付けるべきか。住民環境課長 原則、県の対応となるが、範囲が広く全ては困難。地域住民に協力してもらおう場合、ゴミ袋は支給する。

ジェットシュー ターの数は 計93台

答 町長 危険木除去の実績は。補助金制度を検討したか。

問 危険木除去の実績は。補助金制度を検討したか。産業振興課長 3件相談があり所有者にて対応済み。補助金は難しいが、県の森林税の活用を考える。向陽坂で来年度予防的伐採予算化。

問 八島高原トイレについて。簡易トイレ設置はできないか。産業振興課長 凍結、清掃、防犯など課題もある。必要性があるか検討する。



チェンソー使用訓練をする団員



あおき としこ 青木 利子

新年度予算案 について

旧矢崎商店改修
実施計画の詳細

問 新年度予算案に予定されている国登録有形文化財の旧矢崎商店改修工事の詳細は。

答 産業振興課長 耐震化のための基礎部分の固定化、耐力壁への付け替え、耐震金物の設置、瓦の軽量化などを行う。1階に受付、相談室、事務室、来客用のトイレ等を整備。

生成AIの活用

問 商工会議所で生成AI（人工知能）の活用講座等も実施されているが、庁舎内外での活用にどのような期待をしているか。また、生成AI活用のための町職員に向けた伴走型支援をどう取り入れているのか。

答 総務課長 デジタル推進室の担当職員が相談に応じ、質問の作成方法、活用事例を紹介する等実践的なサポートを行っている。町のガイドラインに基づき、安心して活用できる環境を整えている。



改修予定の旧矢崎商店

「わっこ」来所手段は

問 イオンスタイル諏訪内に設置する子育て・交流テラス「わっこ」。利用する際、北小・社中エリア等の遠方子どもたちの移動手段をどう考えるか。

答 教育こども課長 徒歩だと遠い場合は、保護者と一緒や自転車での来所を想定している。また、開店時期に合わせて、秋頃にあざみ号のダイヤ改正を予定している。



たかはし こうじ 高橋 幸二

移住者定着の 支援策は

移住後に交流会
を実施している。

問 住み続けたい町であるための将来ビジョンは。

答 町長 R4年度実施した満足度調査では、88%の方が住み続けたいと回答。町の魅力向上に努めていく。

通過型から滞在型へ

問 まちなか回遊性と商店街活性化の連携について今後の方向性は。

答 産業振興課長 99分マップ看板で散策を促す。周遊チケットを販売。今後も新しい商品開発をしていく。

カスハラ対策について

問 クレームとカスハラの違いを

答 産業振興課長 観光振興局による下諏訪らしい体験プログラムの旅行商品を開発。今後も宿泊しないと体験できない商品を提案し、人生を豊かにしてもらいたい。



ストップカスハラ

問 明文化したガイドラインや簡易マニュアル作成の考えは。

答 総務課長 新入職員や若手職員が線引きに迷うこともあると思う。前向きに取り組んでいく。

問 庁舎内にクレームとカスハラの違いが分かる掲示物を掲示してほしいが、その考えは。

答 総務課長 組織的に対応することは重要。事業者の義務として対応が必要であるため、R8年度中に指針を整備し運用方法を検討する。



おおし かずこ 大橋 和子

健康長寿でい る為には

本人の気持ちも大切に
支援していく

問 要介護にならない対策は。

答 保健福祉課長 栄養・運動を中心にフレイル予防講座を実施している。保健指導委員会の健康学習会、シニア運動塾、みずべフィットネスなどでフレイル予防の要素を取り入れた事業を推進している。

問 フレイル予防は健康長寿の為、バランスの良い食事による栄養が必要であり、自分事として取り組める環境づくりも必要。シニアの脳トレの助けにもなるeスポーツ教室を推進する予定。

イオンと地元商店の発展

問 イオンと地元商店が共に発展する為の施策は。

答 町長 共存共栄の関係を築くことで地域全体の活性化につなげていきたい。共同で開催するイベントなどを通じて地域の活性化を図ることも一つの施策として考えていく。

問 産業振興課長 イオン内にテナントとして新規に出店する個々の店舗に対する補助は考えていないが、融資斡旋や商工会議所の経営相談などを通してサポートしていく。

問 子育て・多世代交流施設「わっこ」における掲示板の設置の予定は。

答 教育こども課長 利用者が情報交換できる掲示板の設置を予定している。保護者どうしが集い、交流する場として「わっこ」が活用されることを望む。



食事と運動でフレイル予防を

議会だよりモニターのみなさんより

12名のモニターさんに下諏訪町議会だより 50号の感想を聞きました。一部を掲載します。

Q 「下諏訪議会」を「下諏訪ぎかい」にしたのはなぜ？

A 視察先の先進自治体の議会だよりも参考に、デザイン性のバランスの観点と、町民により親しみやすい柔らかな議会だよりのイメージにしたいという理由から、vol.44から紙面のリニューアルを行いました！



一般質問は良く考えられているが、文が短くてわかりづらい。もっとページを増やしたら？

議会だよりを読まない、議員がどんな取り組みをしているかわからない。

「豆知識」、言葉の解説が役に立った！

専門的な用語がわかりにくい。

モニターの皆さんありがとうございました。ご意見を参考に、編集に取り組みます。